

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

# Let's Listenでの指導と評価

松沢 伸二 (新潟大学)



## USE Listen から Let's Listen へ

28NC では、リスニングの指導は主に Let's Listen で行う。このページは 24NC の USE Listen のページを発展的に引き継いでいる。以下に USE Listen から Let's Listen への改訂の意図と実際、さらに指導と評価の要点を説明したい。

## より豊富なインプット

28NC ではリスニングの指導と評価が大きく変わる。28NC で学ぶ生徒には、より頻繁に、より多くの音声インプットが与えられることになった。頻度については、3 学年で計 8 回の USE Listen から、3 学年で計 18 回の Let's Listen へと、2.3 倍に増えている。一方で量的には 3 学年で 1.7 倍に抑えられ、生徒が 1 時間で聞く長さがより適切になっている。

これは、学習者はインプットとアウトプットの機会が多いほど英語力を向上する (Ellis & Shintani, 2014, pp.24-25 など), という第二言語習得 (SLA) 研究で明らかになったことに配慮した改訂である。

## 3 種類の聞き取り

リスニングは、対話のように聞いたあとに発話する場合と、ラジオニュースのように聞き取りに専念する場合に分かれる。28NC を使う英語授業では、前者を話す領域で、後者を聞く領域で指導する。

右ページに 28NC の Let's Listen のページの冒頭を例示した。教師は生徒の聞く技能を、次の①～③の 3 種類の聞き方を指導して育成する。Book 1 Let's Listen 2 「先生へのインタビュー」では、ALT の先生の出身国や誕生日など、「①聞き手が必

要な情報を聞き取る」。Book 2 Let's Listen 5 「留守番電話のメッセージ」では、誰からのどんな条件かなど、「②話し手が伝えたいことを聞き取る」。そして Book 3 Let's Listen 3 「テレビニュース」では、いつ・誰が・どこで・何をしたなど、「③話の全体的な内容を聞き取る」。

生徒は以上の①～③で「聞くことを学ぶ (learn to listen)」。一方、全ての Let's Listen の最後の課題は、「◆どんな表現が使われていたか、もう一度聞いて確認しよう。」である。ここでは「学ぶために聞く (listen to learn)」講義を聞くときのように、「できるだけ多くの詳細を聞き取り、知識に加えて語彙・文法・音声等の習得も行う聞き取り」の学習機会を与えることでリスニング力をつけたい。

## 実践的な聞き取り

リスニングの場面は、教室内の本物のコミュニケーションと教室外の実際のコミュニケーションの 2 つの言語使用領域に見いだされる。「先生へのインタビュー」は前者の、「留守番電話のメッセージ」と「テレビニュース」は後者の領域の身近な場面での実践的な聞き取りの学習である。

24NC は USE Listen を Lesson の中に配置し、Lesson の話題や新出文法に配慮して聞き取りのタスクを設定している。一方、28NC では Let's Listen を Lesson の外に置き、Let's Talk 同様に独自のシラバスに基づいて、2 つの言語使用領域での実践的リスニング能力の伸長を期す。

## 指導の仕方

上述のように、各 Let's Listen のページのねらいは①、②、③のどれかになる。①から③へと難しく

なるため、シラバス上では 1 年生に①を多くし、学年が上がるにつれて②と③が増えるように配置している。

各 Let's Listen のページには Pre-listening, Listening, 表現の確認 (◆) の 3 種の課題を用意している。Pre-listening では、まず絵を用いて場面を把握し、「内容・形式スキーマを活性化して、聞く前に予測すること」の重要性を指導する。

続く Listening では、①～③のどれか 1 つの聞き取りに取り組む。ここでは聞き取りの種類に応じて、2～3 題の課題が設定されている。生徒が目的を変えて数回聞き、ねらいの聞き取りに成功するように指導する。

最後の表現の確認 (◆) ではスクリーンを示し、Expressions のコーナーの語句をチャンクとして活用して、詳細まで聞く聞き取りに取り組ませる。

(なお、初学者に大切な音の変化などの聞き取り指導については、Sounds についての別稿を参照のこと。)

## 評価の仕方

文部科学省 (2013) で、「時間軸に沿って物語のあらすじを読み取ることができる」が指導目標のとき、①教科書の物語文でその読み方を指導 → ②教科書とは別の同じような時間軸で構成された物語文を用いて、あらすじをつかむ練習 → ③教科書とは異なる物語を読む筆記テストにおいて、時の流れを示す表現などを頼りにしながら全体のあらすじを読み取る評価、という手順が改めて示された。

以来、学校では、教科書の課題を「学習タスク」、定期考査の課題を「評価タスク」、評価に向けて練習する課題を「練習タスク」呼び、練習タスクと評価タスクでは、学習タスクと「同じような」ものが異なる (パラレルな) タスクを用いる新しい指導と評価が実践されている (大岩 (2013) など)。

リスニングでは、学習タスクとパラレルな練習タスクと評価タスクを、以下に留意して作成する。

## Book 1 Let's Listen 2

●聞き手が必要な情報を聞き取る  
●話し手が伝えたいことを聞き取る  
●話の全体的な内容を聞き取る

先生へのインタビュー

Pre-listening  
ALTの先生にインタビューをします。自分ならどんなことをたずねたいか、考えてみよう。

Listening  
1. インタビューの会話を聞いて、ALTの先生の名前・出身国・誕生日・家族の人数を、下のメモに書き入れよう。  
2. もう一度聞いて、先生の好きな日本食とスポーツを選び、語句や絵を○で囲もう。

名前: デイビス先生 (Mr Davis)  
出身国: \_\_\_\_\_  
誕生日: \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日  
家族: 兄・弟 \_\_\_\_\_人、姉・妹 \_\_\_\_\_人

好きな日本食: 天ぷら・納豆・煮物・すし  
好きなスポーツ: \_\_\_\_\_

◆インタビューでどんな表現が使われていたか、もう一度聞いて確認しよう。

Expressions  
Do you have any brothers or sisters? 兄弟や姉妹はいますか?  
Thank you for your time. お時間をとっていただきありがとうございます。

Sounds 英語らしい音  
次の英文を聞いて、文の終わりを上げて発音している場合には「ノ」を、下げて発音している場合には「ハ」をそれぞれ( )に書き入れよう。

1. Sorry? ( )  
2. When is your birthday? ( )  
3. I have two brothers. ( )  
4. Do you have any brothers or sisters? ( )

68 sixty-eight

- ・聞き取りの場面と話題: 学習タスクと同様にする
- ・聞き取りの種類: 学習タスクと同一にする
- ・聞き取りの課題: 学習タスクと同様にする
- ・音声の長さ: 学習タスクと同様か短めにする
- ・音声の速さと質: 学習タスクと同様にする
- ・音声の語彙と文法: 学習タスクと同様にする
- ・音声の(ニュースなどの)テキストと(描写などの)ジャンルのタイプ: 学習タスクと同一にする
- ・音声: ALT に依頼するか、ソフトウェアで作る  
慣れてくると、パラレルなリスニングのタスクの作成は、意外に簡単で、楽しい。練習タスクで知識・技能を確実に身につけさせ、生徒が自信を持って定期考査の評価タスクに臨めるように指導したい。

[引用文献]  
Ellis, R. & Shintani, N. (2014) *Exploring language pedagogy through language acquisition research*. London: Routledge.  
文部科学省 (2013) 「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」  
大岩樹生 (2013) 「[5 つの提言]を受けて、今やるべきこと (1) 一初見の文章による内容理解の評価 (Reading)」 *Teaching English Now*, Vol. 25, pp.16-18.

NEGIISHI MASASHI  
TAJIMA OSAMU  
HIDAI SHIGEKI  
MATSUZAWA SHUNJI  
SUZUKI SATORU  
KENO OSAMU  
KUDO YOJI  
HIMOTO HIROHIKI  
SAKAI HIDEKI  
TAJIMA YUJI  
TAJIMA MISAKO